

東京海上日動、損害調査にA I 活用 修理費用まで算出

ツイート

シェア 0

LINEで送る

(2017/12/28 05:00)



ドローンはさまざまな調査に活用されている（イメージ）

AD

基本性能が向上した
新型分析天びん
APシリーズ

モニターキャンペーンのご案内

東京海上日動火災保険は、飛行ロボット（ドローン）と人工知能（A I）を活用し、損害調査から修理費用算出までを迅速に行うシステムを構築する。同様のシステムは業界で初めて。完成車の保管ヤードや工場が天災被害を受けた場合、従来は人間が数カ月かけて調査していたが、新システムなら1〜2日で調査可能。2018年1月から日本で実証実験し、効果を認めれば18年度以降に全世界で順次導入する。

日本の人口減少が進むなか、損害保険各社はロボティック・プロセス・オートメーション（R P A）やA Iを使い、顧客対応以外の業務を中心に省力化を進めている。ドローンによる損害調査は他の損保も行っているが、A Iを組み合わせると修理費用算出まで短時間でを行うところまでは踏み込んでいなかった。

米国では自動車工場に隣接する敷地（ヤード）に、完成した新車を並べて保管することが多い。ハリケーンが横断したり雹（ひょう）が降ったりすると、自動車の屋根が傷つき商品価値が下がるため、自動車メーカーはヤードの新車に損害保険をかけている。

今回のシステムはドローンで空中から画像を撮影し、A Iによる画像解析を行って被害状況を分析、概算の修理費用を短時間で算出する。工場や新車の被害は一般的な家屋に比べ資産価値が算定しやすく、同システムに適している。

調査員が数カ月かけて調査する内容が、1日、2日で終わる可能性もあり、保険金支払いまでの時間が大幅に短縮できる見通し。企業のキャッシュフロー改善につながり、東京海上日動にとっても調査費用を減らせるメリットがある。

(2017/12/28 05:00)

ツイート

シェア 0

LINEで送る

マイクリップ登録する

紙面イメージで見る

記事を利用する

あわせて読みたい

トヨタ、2年連続首位―第11回企業カランキン

マツダ、次世代小型車向けボディー 超ハイテン比率大幅拡大マツダ、次世代小型車向けボディー 超ハイテン比率大幅拡大

第4の視力矯正「オルソケラトロジーレンズ」―就寝時に着用、2週間で回復効果

ようこそ、
jpabscmrdnews@abeam.com
(ログイン中)

[ログアウト]

マイページ

マイニュース

マイ

電子版からのお知らせ

日刊工業新聞社からのお知らせ

最近あなたが読んだ記事

2017/12/28

NTTデータ、A I・I o T特化の組織を新設

第39回工業技術見本市

テクニカルショー

ヨコハマ 2018

2018/2/7 8:00 AM

パシフィコ横浜展示ホール

主催 | 公益財団法人神奈川県産業振興センター

一般社団法人横浜市工業会連合会

カレンダーから探す

12月

2018年01月 ▼

日	月	火	水	木	金
		1	2	3	4
7	8	9	10	11	1
14	15	16	17	18	1
21	22	23	24	25	2
28	29	30	31		

今日の紙面PDF

1月5日の紙面PDF